

平成30年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（前期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 行動科学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	問1 フィールドワークと実験研究の方法論的な特徴を理解した上で、統合的に解釈できる構成力・構想力を評価する。 問2 行動科学の研究に必須の統計学の基礎的知識を正しく理解しているかを確認する。 問3 社会心理学及びその近接領域において研究を遂行する上で必要な専門用語に関する基礎知識を評価する。

平成30年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（前期）
（専門試験） 行動科学 全3枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 3枚、解答用紙 3枚を配付する。

- ・問1から問3まですべてに答えなさい。
- ・解答用紙は1問につき1枚を使用すること。
- ・解答の際には問題番号を明記すること。

問1 ある研究者Aが、日本や欧米などとは異なる伝統的な生活をしている地域へ出かけフィールドワークを行った。コモンズ（共有地）についての数年の観察や聞き取り調査などから、当該地域では既知の人とはもちろん、見ず知らずの通りすがりの旅人などにも親切でコモンズの利用にも寛容でありながら、自発的な協力に基づきコモンズが適切に管理されているとの知見を得た。そこで研究者Aは、当該地域は見ず知らずの他者にもオープンで協力的な文化であると考察した。

同じ地域で、別の研究者Bが、公共財ゲームの実験を行った。その結果、相手が誰か不明な場合には、繰り返しのある場合でも、日本や欧米で得られている結果に比べ非協力の程度が高かった。また、現金ではなく、その地域でよく取引されている商品作物に変えて実験を行ったが、やはり非協力の程度は高かった。そこで研究者Bは、当該地域は閉鎖的で未知の他者との協力関係を築くことがあまりないのではないかと考察した。

この2人の研究者の得た知見に方法論上の問題がなかったとして、フィールドワーク及び実験法の方法論上の特徴をふまえて、2つの知見を整合性のあるように統合的に解釈せよ。

注) コモンズ（共有地）

所有権が特定の個人でなく共同体や社会全体に属する資源。牧草地、漁場、草原、森林、などの資源の共同利用地のことを指す場合が多い。

問2 心理学を含む行動科学研究においては、しばしば有意性検定を用いた統計的推論が行われる。しかし、この方法には様々な弱点があることが知られている。これに関して、以下の3つの間に答えなさい。

- 1) 有意性検定とは何か。その一般的な目的と論理を説明しなさい
- 2) 有意性検定による統計的推論の弱点とは何か、説明しなさい。
- 3) それらの弱点に対して現在までに提案されている対処法や、代替的な方法を説明しなさい。

問3 次の5つの語句すべてを簡潔に説明しなさい。

- 1) バランス理論 (balance theory)
- 2) 一般的信頼 (generalized trust)
- 3) 社会的参照 (social reference)
- 4) 無作為配置 (random assignment)
- 5) 実験者効果 (experimenter effect)